

追 悼



故 平澤由平 先生 略歴

(昭和5年10月29日—平成22年10月3日没)

<学歴・職歴>

昭和31年3月 新潟大学医学部卒業
昭和31年4月 医学実地修練(小千谷総合病院)
昭和32年4月 新潟大学医学部第二内科学教室(第二内科)
入局
昭和38年1月 同 助手
昭和45年4月 社会福祉法人新潟市社会事業協会信楽園病
院嘱託医
昭和46年1月 同 内科医長
昭和47年1月 同 研究部長
昭和59年4月 同 副院長・研究部長
平成5年4月 同 院長
平成8年4月 同 顧問
平成12年3月 舞平クリニック院長

<主な役職>

昭和41年9月～平成8年3月 社団法人日本腎臓学会学術
評議員
平成6年4月～平成8年3月 同 評議員
平成8年4月 同 功労会員
平成13年4月 同 名誉会員
昭和58年7月 第28回人工透析研究会(現日本透析医学会)
総会会長
昭和61年6月～平成9年6月 社団法人日本透析療法学会
(現日本透析医学会)常任理事・評議員

平成9年6月 同 名誉会員
昭和62年7月～平成5年3月 社団法人日本透析医会
副会長
平成5年4月～平成13年8月 同 会長
平成13年9月 同 名誉会長
昭和63年7月～平成21年3月 財団法人新潟県腎臓バンク
(現新潟県臓器移植推進財団)理事
平成21年4月 同 顧問

<委嘱>

日本骨代謝学会幹事
尿毒症病態研究会世話人・会長
腎と骨代謝研究会世話人・会長
雑誌「臨床透析」編集顧問
雑誌「腎と骨代謝」編集顧問
全国腎臓病患者協議会顧問
信越地区腎移植推進連絡協議会委員
新潟県医師会腎不全対策委員会委員

<受賞>

昭和60年3月 新潟市社会福祉功労者表彰
平成8年11月 腎研究会(現日本腎臓財団)学術賞
平成15年1月 日本腎臓財団賞

平澤由平先生を偲んで

新潟大学名誉教授(第二内科)・日本腎臓学会名誉会員

荒川正昭

日本腎臓学会名誉会員，日本透析医学会名誉会員，日本透析医会名誉会長，平澤由平先生は，平成 22 年 10 月 3 日にご逝去なさいました。最近数年間は，糖尿病，糖尿病性神経症，心筋梗塞に悩まされながら，また一昨年，肺癌を発見されてからも，精力的にお仕事を続けておられましたが，治療の甲斐なく彼岸に旅立たれました。80 歳のご生涯でした。

平澤先生は，昭和 5 年 10 月 29 日，新潟県小千谷市で誕生され，31 年，新潟大学医学部をご卒業，1 年間の医学実地修練の後，母校第二内科学教室(主任・桂重鴻教授)に入局なさいました。当時助教授であられた木下康民先生は，昭和 29 年，わが国で初めて腎生検の臨床応用に成功され，これを契機に第二内科に腎臓研究グループが誕生，先生も同グループに参加されたのであります。

昭和 35 年，桂先生定年ご退官の後を受けて，木下先生が第 4 代教授に昇任なされ，腎研究は糸球体腎炎・ネフローゼ症候群の臨床と病理を中心に精力的に進められました。治療では，副腎皮質ステロイド薬が導入されましたが，慢性腎不全の治療は最も難渋を極めたのであります。平澤先生は，昭和 38 年に国内で始まったばかりの“慢性腎不全患者の腹膜透析(腹膜還流)”を手がけ，さらに 41 年，わが国で初めて“慢性腎不全患者の血液透析”を実施されました。当時，私たち若い医局員は，それぞれさまざまな研究テーマを持っていましたが，臨床では全員がこの新しい治療に参画したのであります。

大学紛争の嵐が吹き荒れた昭和 40 年初め，大学内で血液透析を拡充していくことは難しく，46 年，先生は新潟市内の信楽園病院に赴任，ここでライフワークとして慢性血液透析の臨床と研究を精力的に進められ，わが国慢性腎不全治療のメッカとしての地位を確立されました。

先生は，30 余年のお仕事を通じて，数々の業績を挙げられました。昭和 48 年；透析液の組成の検討，特にカルシウム(Ca)濃度の設定，50 年；ダイアライザー・チューブのエチレンオキサイド滅菌によるアレルギーに対するオートクレーブ滅菌の導入，52 年；腎性骨症に対する活性型ビタミン D 治療の治験開始と治療法の確立，53 年；アルミニウム(Al)中毒症に対する逆浸透装置による水処理の導入，重曹透析の検討，58 年；透析患者の運動療法，60 年；透析アミロイド症に対するダイアライザー，血液濾過(HF)，血液濾過透析(HDF)の検討，63 年；腎性貧血に対するエリスロポエチン治療の治験開始と治療法の確立，平成 4 年；無酢酸透析法の検討，7 年；透析患者の栄養障害の検討など，現在の血液透析のスタンダードすべての確立に大きく貢献されました。先生の歩みは，わが国の血液療法歩みそのものであり，臨床研究の真髄，まさにここに在りと言えます。

これら一連の業績に対して，日本腎臓学会，日本透析医学会は名誉会員に推挙，また，日本腎臓財団から腎研究会(現組織の前身)学術賞，日本腎臓財団賞を授与されました。また，先生は，学術面の功績だけでなく，医療としての血液透析が社会に広く正しく認識されることを願い，昭和 62 年，社団法人日本透析医会の設立に尽力され，副会長，次いで会長として，透析医療の発展に貢献されました。

先生は県立小千谷高校のご出身，バレーボール部に所属し，長身を利しての強烈なスパイクを得意とするエースアタッカーとして活躍されました。私も同じ高校，同じクラブの 4 年後輩であり，高校時代から

合宿などでご指導を受けておりました。大学でもバレーボール部の先輩としてご指導いただき、卒業後も先輩のおられる第二内科に入局させていただきました。

先生は、臨床において、豊富な知識と体験を基礎として、鋭い洞察力により問題点を探り、世界の文献を丹念に検討されつつ、治療の開発に取り組まれました。長身のお身体と同じように、人間としても大きく魅力に溢れ、若い人達との議論・会話は常に明るく活発で、先生の知遇を得たすべての人が厚い信頼を寄せたのであります。

これからも大所高所よりご指導を賜りたいと願っておりましたが、ご逝去は痛恨の極みであります。新潟大学第二内科(大学院医歯学総合研究科・内部環境医学)・小児科・泌尿器科・腎研究施設は、信楽園病院を中心とする県内外の関連病院・医院と一致協力して、今後も腎の臨床と研究を精力的に進めていくことと期待していますが、若い学究には平澤先生の腎研究に対する熱い思いと不断の努力を改めて思い起こして欲しいと願っています。

先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。安らかにお休み下さい。

平成 23 年 1 月
(写真提供；中外製薬・高野氏)